

体験コーナー進行例

保護者

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 防災教育プロジェクト
作成協力 NPO法人プラス・アーツ

コーナー	家庭で備える防災グッズ
目標	家庭で用意することで、特に発災後の生活に役立つものを知る
スタッフ数	1、2名
準備物	<p>グッズ 「地震ITSUMO」のホームページ資料をもとに、揃えるとよい。 LED電燈・ヘッドライト、簡易トイレ、タオル・大判ハンカチ、軍手・皮手袋、レインコート、非常食、ビニール袋、ホイッスル、新聞紙、手提げつきビニール袋、ラップ など)</p>
会場 平面図	・机を並べ、上にグッズを展示。
進行	<p>資料をもとに、グッズの使い方を伝える。 ・ヘッドライト 懐中電灯では、両手が使えない LEDで、持続時間が長いものを選ぶ ・軍手 がれきが多いので、できれば皮手袋や合成樹脂のグローブなどがよい ・新聞紙 すぐに捨てないで、2カ月分は保存しておく。 紙食器、骨折の添え木、寒さをしのぐ、ビニール袋にちぎって入れてトイレなど ・薬・救急セット 常備薬、デンタルリンス(肺炎予防) ・ラップ 皿に敷いて水の節約、怪我の時の包帯 ・レインコート 雨よけ、防寒、がれきの町のほこりよけ マスクもセットに ・ウエットティッシュ 食事前後やトイレの後、家庭にはボトルタイプを</p> <p>どこに置か しまい込まない、目につくところ、車の中 非常食 ローリングストック法 自分にあつた、味のよいものを用意 朝・昼・夜の4日間分12食分を家族の人数分用意 月に1回、1食分を食べて、その分を補充すると、1年で入れ替わる 特に、子供の場合は、食べなれたものを用意する。</p>
進行上の 注意	被災地での活動体験者から体験に基づくグッズの紹介や、体験談からの引用など、経験に基づく紹介を。

